

試験研究成果普及情報

部門	麦及び雑穀	対象	普及
課題名：極大粒落花生「おおまさりネオ」の連続的な出荷に適した作付体系			
<p>[要約]「おおまさりネオ」を5月上旬から6月上旬に播種し、開花期後80日から90日に収穫することで、9月中旬から10月中旬にかけて連続的に出荷できる。4月下旬播種の場合は、播種直後から開花期まで割繊維不織布又は長繊維不織布をべたがけ被覆することで、収穫を1週間程度早めることができ、収量を確保できる。</p>			
キーワード 落花生、おおまさりネオ、極大粒、レトルト、ゆで豆			
実施機関名	主 査 農林総合研究センター 落花生研究室		
	協力機関 JAちばみどり、農林総合研究センター 流通加工研究室		
実施期間	2019年度～2021年度		

[目的及び背景]

ゆで豆用落花生の生莢出荷では掘りたての新鮮な莢実を出荷するため、一日の作業時間や収穫量が限られる。そのため、圃場を有効活用して連続的に出荷するには、収穫日を分散させなければならない。近年育成されたゆで豆用極大粒落花生品種「おおまさりネオ」の収穫適期は開花期後85日～90日であるが、長期間の連続的な出荷の実現に向け、播種時期と収穫期間の拡大や保温資材の活用を組み合わせた作付体系を明らかにする。

[成果内容]

- 1 「おおまさりネオ」は5月上旬に播種した場合は開花期後70日で収穫すると製品重が少ないが、開花期後80～100日で収穫すれば製品重が多くなる（表1、図1）。5月下旬及び6月上旬播種では開花期後70日又は100日で収穫すると製品重が少ないが開花期後80～90日で収穫すれば製品重が多くなる。
- 2 5月下旬、6月上旬に播種した場合、収穫日を遅くするとショ糖含有率が高くなる傾向がある（表2）。
- 3 したがって、5月上旬から6月上旬にかけて播種し、開花期後80～90日に収穫することで、9月中旬から10月中旬にかけ一定以上の収量が確保でき、連続的に「おおまさりネオ」を出荷することが可能である（図1）。
- 4 4月下旬に播種した場合、無被覆栽培では収穫日が9月中旬になるが、長繊維不織布（パスライト）又は割繊維不織布（ベタロン）で播種直後から開花期までべたがけ被覆することで開花期が早まり、9月上旬に収穫することが可能である（表3）。また、4月下旬播種の無被覆栽培では収量が低い、べたがけ被覆により総莢重が増加し、製品重が多くなる。
- 5 以上から、5月上旬～6月上旬播種では、開花後80～90日で収穫すれば、9月中旬

から 10 月中旬に十分な品質・収量が確保できる。また、4 月下旬播種では、べたがけ被覆を行い開花後 90 日で収穫すれば 9 月上旬に十分な収量が確保できる。これらの栽培体系を組み合わせることで、9 月上旬から 10 月中旬にかけて安定した収量で連続的に「おおまさりネオ」の生莢出荷を行うことが可能である（図 2）。

[留意事項]

「おおまさりネオ」は干ばつによる子実の肥大不良を生じやすい傾向があるため、開花期後 20 日以降は定期的にかん水を行う。

[普及対象地域]

県内全域

[行政上の措置]

[普及状況]

令和 3 年から銚子ゆでピー生産組合等において「おおまさりネオ」が生産されている。

[成果の概要]

表 1 播種期、収穫期別の生育、収量及び品質（令和元年）

播種期	収穫期	播種日 (月/日)	開花期 (月/日)	収穫日 (月/日)	開花 日数 (日)	総莢重 (kg/10a)	製品重 (kg/10a)	製品率 (%)
5 月 上旬	70日	5/10	6/24	9/2	45	1,251	356	28
	80日	5/10	6/24	9/11	45	1,619	459	27
	90日	5/10	6/24	9/21	45	1,571	424	26
	100日	5/10	6/24	10/1	45	1,519	424	27
5 月 下旬	70日	5/24	7/2	9/10	39	1,422	396	27
	80日	5/24	7/2	9/19	39	1,505	538	35
	90日	5/24	7/2	9/30	39	1,396	524	36
	100日	5/24	7/2	10/10	39	1,281	430	33
6 月 上旬	70日	6/6	7/18	9/26	42	1,466	433	29
	80日	6/6	7/18	10/7	42	1,517	502	33
	90日	6/6	7/18	10/16	42	1,326	534	40
	100日	6/6	7/18	10/24	42	1,297	450	34

注 1) 肥料は全量元肥で化成 13 号 (3-10-10) を 100kg/10a 施用、条間 45cm、平均畝間 65cm(5, 128 株/10a)、2 条マルチ栽培

2) 開花日数は播種から開花までの日数

3) 収穫期は開花期後日数を示す

4) 製品重はレトルトゆで落花生用の出荷基準を基に選別した莢の重量を示す

5) 製品率は製品重の総莢重に対する割合

表2 播種期、収穫期別の子実成分（令和元年）

播種期	収穫期	播種日 (月/日)	収穫日 (月/日)	食味評価	水分 (%)	ショ糖含有率 (g/100gFW)	デンプン (g/100gFW)	粗脂肪 (g/100gFW)
5月 上旬	70日	5/10	9/2	2.5	67	2.4	1.4	12
	80日	5/10	9/6	2.5	63	2.3	1.4	13
	90日	5/10	9/12	2.6	54	2.3	1.7	17
	100日	5/10	9/24	2.5	55	1.9	1.8	17
5月 下旬	70日	5/24	9/11	2.4	63	1.8	1.4	13
	80日	5/24	9/15	2.5	54	1.8	1.7	18
	90日	5/24	9/19	2.8	49	2.1	2.1	19
	100日	5/24	9/30	3.1	49	2.3	1.9	19
6月 上旬	70日	6/6	9/26	2.6	62	1.9	1.6	14
	80日	6/6	10/1	2.8	56	1.7	1.9	17
	90日	6/6	10/7	2.9	51	2.3	2.0	19
	100日	6/6	10/16	3.5	49	2.6	2.1	19

- 注1) 肥料は全量元肥で化成13号(3-10-10)を100kg/10a施用、条間45cm、平均畝間65cm(5,128株/10a)の2条マルチ栽培
 2) 収穫期は開花期後日数を示す
 3) 食味評価は収穫後すみやかに脱莢、洗浄、選別した莢を30分～3時間4℃で保存し、圧力なべで15分間加圧調理(塩分濃度2.0%)し、パネル数8名で「1:悪い」～「5:良い」の5段階で同一播種期のサンプル間で相対評価した。
 4) 子実成分は収穫後洗浄した莢をレトルト落花生の選別基準によって選別し生の子実について液体クロマトグラフで分析
 5) ショ糖含有率の単位「g/100gFW」は子実の生重量(新鮮重量)100g当たりのショ糖含有率を示す

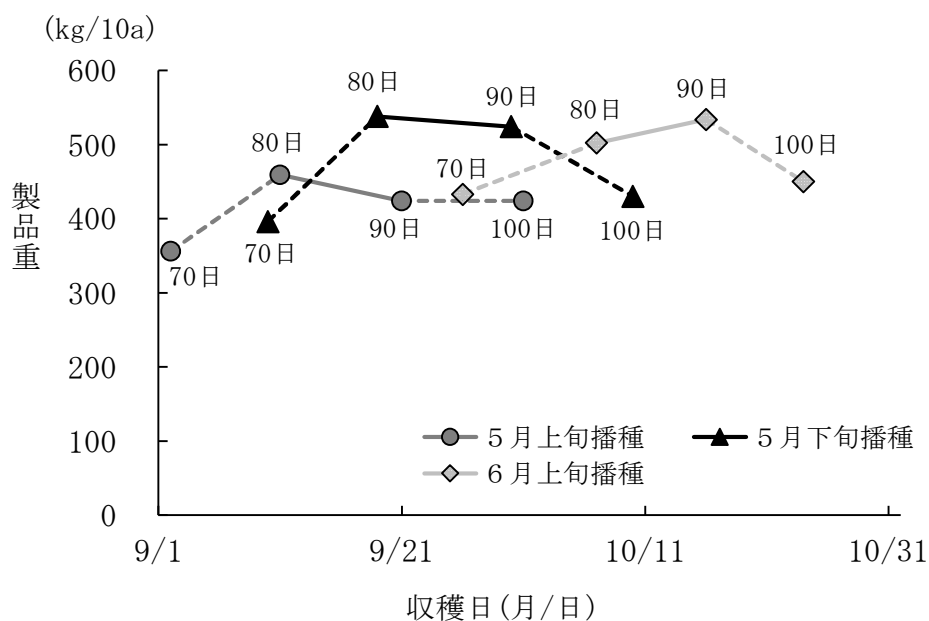


図1 播種時期及び収穫時期別の製品重（令和元年）

- 注1) 実線部分は開花期後80～90日の期間を示す
 2) マーカーに付した文字は開花期後日数を目安とした収穫期を示す

表3 4月下旬播種におけるべたがけ資材の違いが生育及び収量・品質に及ぼす影響（令和2年～3年）

年度	試験区	播種日 (月/日)	開花期 (月/日)	開花 日数 (日)	収穫日 (月/日)	最長 分枝長 (cm)	茎葉重 (kg/10a)	総莢重 (kg/10a)	製品重 (kg/10a)
令和2年	パスライト	4/30	6/8	39	9/9	45	1,673	1,056	292
	サンサンネット	4/30	6/10	41	9/9	40	1,695	968	232
	ベタロン	4/30	6/8	39	9/9	45	1,801	1,066	201
	無被覆	4/30	6/14	45	9/14	40	2,211	660	135
令和3年	パスライト	4/28	6/4	37	9/2	67	4,269	2,125	257
	サンサンネット	4/28	6/8	41	9/6	52	2,503	1,982	333
	ベタロン	4/28	6/5	38	9/3	62	4,450	2,110	449
	無被覆	4/28	6/13	46	9/11	55	2,265	1,752	242

注1) 肥料は全量元肥で化成13号(3-10-10)を100kg/10a施用、条間45cm、平均畝間65cm(5,128株/10a)の2条マルチ栽培、パスライト、サンサンネット、ベタロン区は播種直後から開花期までべたがけ被覆した

- 2) 開花日数は播種から開花までの日数
- 3) 製品重はレトルトゆで落花生用の出荷基準を基に選別した莢の重量を示す
- 4) 製品率は製品重の総莢重に対する割合
- 5) 収穫は開花期後90日を目安に行った

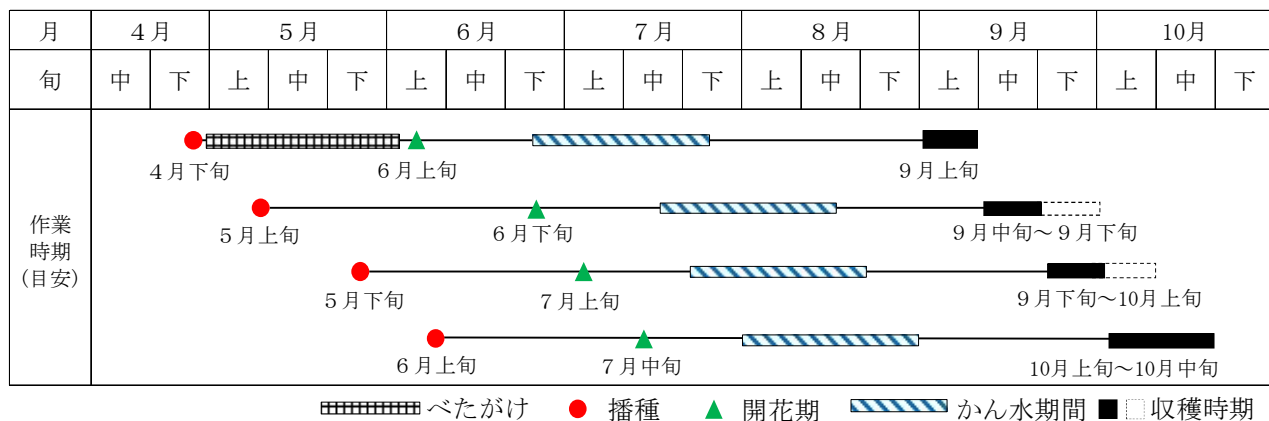


図2 9月から10月にかけて「おおまさりネオ」を継続的に出荷するための作付体系(例)
注) 破線の収穫時期は、他の播種時期の「おおまさりネオ」を収穫した方が製品重が大きくなることを示す

[発表及び関連文献]

- 1 青柳ら、べたがけ被覆がラッカセイ「おおまさりネオ」の生育及び収量に及ぼす影響、日本作物学会第251回講演会要旨集、2021年
- 2 「千葉県の新時代を切り開くオリジナル品種の開発」研究成果集、2022年
- 3 令和4年度試験研究成果発表会（野菜I部門・作物部門）
- 4 「おおまさりネオ」の栽培方法（千葉県農林水産技術推進会議技術指導資料、令和2年度）

[その他]

- 1 プロジェクト研究事業「千葉県の新時代を切り開くオリジナル品種の開発」（平成29～令和3年度）